

養蚕業をめぐる課題に関する委員意見

資料2-1-①

全体についての意見	<p>(芦澤委員) 国産の蚕糸でつながる事業者の連携は今後必須だと思うので、蚕糸の日や集いの場などで仲間意識を持ちながら課題解決の相互協力を結びたい。</p> <p>(齊藤委員) 蚕糸業は、世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」の原点であり、日本の近代化に貢献した伝統産業であるので、次世代にしっかりと継承していくことが必要と考えます。</p> <p>蚕糸業は、蚕種業、養蚕業、製糸業のうち、ひとつでもかけると崩壊してしまいます。国産繭の生産量の減少に危機感を持ち、それぞれの業が持続可能になるために、抽出した課題を整理し、短期・中期・長期に何をしたら良いのか具体的な方策について、議論が深まれば幸いと存じます。</p> <p>蚕種業、製糸業においては、特殊な技術が必要とされています。技術継承をしっかりとできる体制を早急に整える具体的な対策について、議論していただきたいと存じます。</p> <p>国産の繭・生糸の価値や価格を向上させる具体的な対策について、議論していただきたいと存じます。</p>
-----------	---

	課 題	各項目についての意見	
2-1 桑の栽培	桑苗	<ul style="list-style-type: none"> ・桑苗生産業者が限られている（群馬県1社、JAおやま管内、宮城県蚕糸会）ため増産が困難。 ・全国的な栽培面積や品種構成の把握ができていない。 ・改植要望は見られず、改植計画がない。（15～20年サイクルが理想） 	
	栽培管理	<ul style="list-style-type: none"> ・近年難防除雑草（朝鮮アサガオ、カラスウリ、オヒシバ）が増加。 ・桑園の害虫（スケバハゴロモ、スキムシ、アメリカシロヒトリ）について残効期間の短い殺虫剤がない。 ・温暖化により春先の凍霜害のリスク増大。 ・鳥獣害の実態がつかめていない。 	
	収穫機材	<ul style="list-style-type: none"> ・条桑収穫機の製造メーカーがない。 	
	桑育種	<ul style="list-style-type: none"> ・研究者、専門家、現場指導者がいない。 	
			<p>○アシザワ養蚕も桑苗の生産販売を検討中。桑苗専門でなくても、既存の果樹苗や庭木苗業者の組合などに打診してみてもどうか？（芦澤委員）</p> <p>○桑苗生産については、生産者が残る3県において桑苗生産研修会を早急に実施するとともに、残っている養蚕農家の副業、あるいは果樹苗の生産企業等への技術普及を図るべきと思います。（土屋委員）</p> <p>○資料2-1にあるように「桑苗」の入手が困難になっています。福島県では桑品種「きぬゆたか」という萎縮病耐性に優れ、増殖も容易な桑品種を登録していましたが、3年前に権利を放棄しました。地域に母樹園は残っています。</p> <p>現在の桑園も樹齢が半世紀を超えると、肥料効率が下がり、コストを圧迫しています。</p> <p>例えば養蚕業を持続させるために、必要な経費を数年間に限って集中して投下する事業を起こし、第一弾として「改植運動数年計画」、第二弾として「簇の更新による汚染繭排除」など現場を活気つかすことも必要。（佐藤委員）</p> <p>○鹿害について専門的な対策をしりたい。セミナーなど。最新技術などで簡易的な対策はできないのか。（芦澤委員）</p> <p>○小さい規模の養蚕農家や新規者に「桑切鎌」での収穫を教えたらどうか？ハサミの倍の収穫量を慣ればできる。機械化よりも技術を身につければそれば2人分の収穫を一人でできるように成ると思う。アシザワセミナーできます。（芦澤委員）</p> <p>○信州大学にいないですか？桑の畑を持つてる大学機関に実際に行ってセミナーしてみてもどうか？（芦澤委員）</p>

蚕の飼育②	壮蚕飼育	・夏期高温により夏蚕期及び初秋蚕期の猛暑対策が必要。	<p>○人手不足はボランティアでどうにかならないか？もしくはお金をもらう体験として。日程調整やリスク管理とか段取りとか難しいと思う。それこそ地域のバックアップをもらいながら進めてはどうか？（芦澤委員）</p> <p>○農家の高齢化が進んでいる。家族経営と言えども奉仕事業ではない。繭単価を上げることが必要。（佐藤委員）</p> <p>○繭単価が上がらない理由を立派な経済学者に解き明かしてもらえないだろうか？事業継承は専門家チームを組んで取り組んだほうが良いと思う。当事者だけでは解決しない。畑や設備が整っているうちに、家系者以外が参入できるようなモデルを確立することが望まれる。早く取り組みたい。（芦澤委員）</p> <p>○喫緊の課題は、繭生産の減少に歯止めがかからないこと人材の確保であると思います。長期的な繭価格の補償制度の導入、企業、農家、農業団体、ボランティア団体、農福連携等の新規参入の参入支援を強化して欲しいと思います。また、「ニッポンシルクアカデミー（仮称）」を設置し、途上国の研修生を大勢受け入れて繭生産をしながら技術移転を行い、結果として国内の繭生産を拡大することも一考と考えます。（土屋委員）</p> <p>○蚕種掃立から繭出荷を行い繰糸するまでも多くの工程が必要で、それぞれが分業している。これら全工程が再生産可能ではじめて養蚕が産業として持続できます。</p> <p>とはいえ、いまや養蚕専用農家はなく、複合経営の一部、それも家族内複合の一部であり、「収入の向上と雇用の確保」という産業としての要素は薄いのが実情。従って「赤字にならない品目」であれば（特に中山間地域であれば）少量生産で継続できるのではないのでしょうか。（佐藤委員）</p> <p>○製糸工場までの距離が遠く、また運送業者が（鮮度維持が大切な）農産物輸送に慣れているとしても、繭の長距離輸送に熟達しているか疑問。その結果、出荷時に選繭した結果と、工場での選繭結果があまり乖離しており不信を抱いている。ところが輸送中の繭袋の中心温度など誰も測定したことが無いようです。今の時代、これは簡単に計測できます。これが明らかになれば、例えば出荷袋を半分量にする、内部に小型の扇風機を入れて繭の温度を下げる（上げない）など工夫ができるのではないのでしょうか。いずれ、今の流通形態に合わせた課題解決が急がれています。（佐藤委員）</p>
		・濃病、硬化病、細菌病が発生すると壊滅的打撃を受ける。	
		・上蔭時の人手が足りない。	
	養蚕経営	・肥料、農薬、燃油等の高騰により、経営コスト増大。	
		・繭の価格が上がらない。	
		・事業継承が難しい。	
		・高齢化し、後継者確保が難しい。	
		・製糸工場が遠い。	

蚕の飼育①	蚕品種	<ul style="list-style-type: none"> 研究者、専門家、現場指導者がいない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○呉服メーカーが抱えている蚕品種があるが、(プラチナボーイ松岡ひめ) 海外との差別化がし易いのが蚕品種だと思う。この日本特有の品種の割合を多くする取り組みを進めたい。呉服業側もそれを求めていると感じる。(芦澤委員) ○蚕種製造については、会社の経営はともかく、種繭を作ってくれる農家がいることが生命線。(戸堀委員) ○個人のペット向けのかいこ飼育キットの増大の方向性を強化するのはどうか? 蚕種事業者の判断になると思うが、ベンチャー企業や海外技術展開の可能性はあると思う。そのあたり、法的にどうか? 倫理的にどうか? 長期的な目線で業者が民間として生き残ることの重要性をメンターで集まり会議したいと思う。「蚕を飼おうキャンペーン」を関連博物館だけでなく、動物園、動物病院や小学校などにひげて個人用の蚕種販売の売上をあげて蚕種業者の貢献と、業界の普及啓発を同時にできないか。10頭×1万人×2000円。(芦澤委員) ○養蚕農家内で稚蚕をする指導が必要、これから新規の人は必須だろうから研修にもプログラムを組み込んでもよいのでは。人工飼料と桑の葉どちらも稚蚕できるのがベスト。(芦澤委員) ○稚産を各農家で飼育することは困難です(人工飼料育を実践した時代はありましたが)。ところが共同飼育所では経費絶滅のため(特に電気代)掃立日を統合しています。多回育や広範な各地の掃立日に対応不能に陥っています。
	蚕種製造	<ul style="list-style-type: none"> 蚕種製造は赤字状態。 民間4社(富田蚕種製造所、株式会社高原社、上田蚕種製造所、愛媛蚕種株式会社)と群馬県、蚕糸科学技術研究所のみ。 	
	稚蚕飼育	<ul style="list-style-type: none"> 共同稚蚕飼育所の閉鎖・集約により、遠方から稚蚕をとりよせなければならない農家が增加。 運搬コスト増加及び稚蚕の品質低下が懸念。 	
蚕具	<ul style="list-style-type: none"> 飼育装置、上族用器具、自動収繭毛羽取機等の製造・修理メーカーがなく、中古機材や廃業農家の機械を再利用。 	<ul style="list-style-type: none"> 運営経費の支援は必須(例えば電気代の補助)の状況です。共同飼育所の従事者の高齢化(80歳前後)でほぼ説減寸前です。また、農村部では今や雇用の場はひと昔と異なって豊富です。大型小売店、道の駅、直売所が増え(これらの店舗ではレジ打ちができれば誰でも務まり)、農産物選果場のような季節性と技術の習得が必要な職種は目立って高額でない限り応募されない(今後、小売店の無人レジ化で雇用の場が減少していくかもしれない)(佐藤委員) ○蚕具はどこかで一括集中して確保して欲しい。全国の製糸会社各種で余剰の倉庫などあればそこにあつめリスト化して必要に応じて分配できるWEBシステムできないか?(芦澤委員) ○蚕具につきましては、確氷製糸が中古品の回収、修理、販売を行ってはおりますが、製造をするメーカーが次々と廃業をし、このままでは限界が来る日が懸念されています。打開策としては、世界最高水準の我が国の蚕糸技術をベトナムなどの途上国にJICAと連携しながら普及し、あわせて途上国で蚕具を製造することができれば、日本でも使用できる蚕具を確保することになると思います。(土屋委員) ○養蚕資機材の供給については、ベトナムなどの途上国に日本の技術を広め、海外で製造した資機材を輸入するという方法もあるのではないかと。(土屋委員) 	

製糸	工場	<ul style="list-style-type: none"> ・国産繭の出荷先製糸工場は5社（碓氷製糸（株）、松岡（株）、（株）宮坂製糸所、松澤製糸所、西予市野村シルク博物館）のみ。 	<p>○製糸業者としては、国産繭が減少すると操業できなくなる。国産繭を確保するため企業の参入や農福連携などの方法も考えている。（土屋委員）</p> <p>○少量の製糸・求める糸質に合わせて工夫ができる連携が海外との比較を生むので、現場の人の意識も含め認識を共有したい。機械のメンテナンスは、趣味レベルのマニア団体を見つけて課題解決にむけないか？昔の機械をいじって直したい人はいそう。（芦澤委員）</p> <p>○製糸については、世界遺産条約第5条に基づき、日本国として世界遺産「富岡製糸場」の製糸機能を復活させ、動態展示に必要な最低限の繭、工女、製糸技術者を確保することが批准国としての責務であると思います。そのためには、早急に必要な人材育成を開始し、養蚕、製糸の技術者育成をすることが不可欠です。（土屋委員）</p> <p>○世界遺産富岡製糸場の動態展示による蚕糸業の再生も検討している。（土屋委員）</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・国産繭の減少により稼働率低下。 	
	製糸機械	<ul style="list-style-type: none"> ・研究者がいなく、修理業者が皆無。廃業機からの部品で対応。 	
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・製糸業の先の事業（撚糸・機織等）もコロナ禍で減少。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・教本（標準指導書）の新書がない。 	

養蚕業をめぐる課題の整理（案）

資料2-1-②

		課 題	分 野	緊急度	
桑の栽培	栽培管理	・近年難防除雑草（朝鮮アサガオ、カラスウリ、オヒシバ）が増加。	桑の栽培管理・蚕の飼育に関する技術		
		・桑園の害虫（スケバハゴロモ、スキムシ、アメリカシロヒトリ）について残効期間の短い殺虫剤がない。			
		・温暖化により春先の凍霜害のリスク増大。			
		・鳥獣害の実態がつかめていない。		○	
壮蚕飼育	壮蚕飼育	・夏期高温により夏蚕期及び初秋蚕期の猛暑対策が必要。			◎
		・濃病、硬化病、細菌病が発生すると壊滅的打撃を受ける。			◎
		・上簇時の人手が足りない。			◎
蚕の飼育	養蚕経営	・肥料、農薬、燃油等の高騰により、経営コスト増大。		養蚕経営	○
		・繭の価格が上がらない。	◎		
		・高齢化し、後継者確保が難しい。	◎		
		・事業継承が難しい。			
		・製糸工場が遠い。			

桑の栽培	桑苗	・桑苗生産業者が限られている（群馬県1社、JAおやま管内、宮城県蚕糸会）ため増産が困難。	養蚕の支援体制	
		・全国的な栽培面積や品種構成の把握ができていない。		
		・改植要望は見られず、改植計画がない。（15～20年サイクルが理想）		
	収穫機材	・条桑収穫機の製造メーカーがない。		
	桑育種	・研究者、専門家、現場指導者がいない。		
蚕の飼育	蚕種製造	・蚕種製造は赤字状態。		
		・民間4社（富田蚕種製造所、株式会社高原社、上田蚕種製造所、愛媛蚕種株式会社）と群馬県、蚕糸科学技術研究所のみ。		
	稚蚕飼育	・共同稚蚕飼育所の閉鎖・集約により、遠方から稚蚕をとりよせなければならぬ農家が増加。		
		・運搬コスト増加及び稚蚕の品質低下が懸念。		
	蚕具	・飼育装置、上族用器具、自動収繭毛羽取機等の製造・修理メーカーがなく、中古機材や廃業農家の機械を再利用。		
蚕品種	・研究者、専門家、現場指導者がいない。			
製糸	工場	・国産繭の出荷先製糸工場は5社（碓氷製糸（株）、松岡（株）、（株）宮坂製糸所、松澤製糸所、西予市野村シルク博物館）のみ。		
		・国産繭の減少により稼働率低下。		
	製糸機械	・研究者がいなく、修理業者が皆無。廃業機からの部品で対応。		
その他		・製糸業の先の事業（撚糸・機織等）もコロナ禍で減少。		
		・教本（標準指導書）の新書がない。		

国産繭のスポット入札取引の試験的实施に関する委員意見

(芦澤委員)

とてもいい取り組みと思う。

もし思うような結果がでなかったとしても、めげずに何度も修正と改善をして取り組んでほしい。繭の市場価格が最終的に上がればとても嬉しい。

生産者側にもなにかできることがあれば声かけいただきたい。

(齊藤委員)

国産繭は、希少なものであること、どのような価値があるのかなどを整理してアピールできると、よいのではないかと思います。

(佐藤委員)

一つの取引事例にとどまるのか、ここで形成された市場価格が「目に見える繭代金」として価格を支配してしまうのか不明なだけに、不安を感じます。

(土屋委員)

新しい取り組みに感謝しております。次年度は、生糸、及び、遺伝子組み換え生糸、シルクパウダーなどの新素材の試験的入札も実施していただきたいと思います。

国産繭のスポット入札取引の試験的実施の結果について

10月16日に実施した標記入札の結果は下記のとおりです。

記

ロット 番号	蚕品種	産年・蚕期	産地	上場数量 (kg)	袋数	落札数量 (kg)	落札価格 (円/kg)
1	錦秋・ 鐘和	令和5年産 ・夏蚕期	栃木県	100	20	30	12,500
2	なつこ	令和6年産 ・初秋蚕期	群馬県	400	80	不落	不落

(備考)

1. 落札価格は、乾繭1kg当たりの価格（消費税抜き）である。なお、生繭に換算すると5,000円/kg程度になる。
2. 引取条件は売り手の倉庫前渡しである。

担 当：蚕糸絹業振興部
小林、阪本
電 話：03-3214-3500
メー ル：shinkobu@silk.or.jp

「蚕糸の日」に関する委員意見

(芦澤委員)

「蚕糸」という言葉を知らない人も多くなってきたので啓発の意味でも大変ありがたい。

ただ制定するだけでは意味がないので、普及啓発活動イベントも兼ねてできたらいいと思う。

業界内に記述された以上に課題が山積する中で、こういった蚕糸の日をとおして、業界がまとまる日があれば、連携がとりやすいのではないかと。業界内向けもそうだが、業界外に向けて発信し伝える、業界内に入ってもらう事を続けないと、より一層しぼんでしまうだけだと思う。一般社団法人日本サステナブルシルク協会としても次回は京都で進める方向で活動しているが共同しながら進めていければ大変うれしく思います

(工藤委員)

「養蚕」を“ようさん”と読むこと、またどういう意味なのか？をわからない人は多いと思います。

- ・「養（ようさん）蚕」とするような工夫も可能であれば必要かと思います。
- ・国産繭の日、国産シルクの日としてもよいのでは。

「〇〇の日」というのは、とても多くあり、誰もが関心を持っているとは思えません。ほとんど聞いたこともない日も多くあり、誰に対しての告知・広告かが良くわかりません。資料にありましたように関連行事やイベントをすとか何かとセットでの広告は必要だと思います。そしてこれを機会に、ターゲットを絞り、定期的、中・長期的なスケジュールも提案してはいかがでしょうか。

(佐藤委員)

例えば福島県の養蚕農家の何が誰にどのように伝わって、その結果、養蚕農家は何を得られるのか不明です。国民的な運動になるのは良いことですが、動きが見えるようにしていただきたい。

(土屋委員)

蚕糸の日の制定については賛成です。ただし、制定日につきましては、世界遺産となった富岡製糸場の創業日である10月4日を希望します。

世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」は人類の宝ですが、今も生き残る我が国の養蚕、製糸は日本の宝であると思います。絹業、国民も含めて天然繊維の女王であるシルクを生み出している我が国の蚕糸業に想いを馳せる記念日にして欲しいと考えます。

「蚕糸の日」の制定について

1. 記念日制定の例

記念日を設定制定して業界全体の機運を盛り上げる取組は、様々な業界で見られる。今のところ蚕糸の日の登録はないが、2024年3月4日に若手養蚕農家が中心となって、「蚕糸の日決起大会」と題した関係者の集いを開催している。

名称	記念日	制定者
緑茶の日	5月1日又は2日	公益社団法人日本茶業中央会
畳の日	4月29日、9月24日	全国畳産業振興会
いぐさの日	6月1日	(株)イケヒコ・コーポレーション
きもの日	11月15日	全日本きもの振興会
呉服の日	5月29日	全国呉服小売組合総連合会
スカーフの日	3月4日	日本スカーフ協会
虫の日	6月4日	日本昆虫クラブ
桑の日	9月8日	(株)お茶村

2. 「蚕糸の日」の制定の効果

「蚕糸の日」を制定し、広く周知することにより、日本の養蚕業を多くの方に知ってもらうとともに、蚕糸業関係者が広報や商品プロモーションを集中して行う機会とする。これを機に我が国の養蚕・絹の歴史の再認識や絹への関心を高めることなどにより、結果として国産絹製品の消費拡大とそれを通じた養蚕振興、さらには伝統文化の継承に寄与するものとなる考えられる。

3. 記念日の登録方法

一般社団法人日本記念日協会へ申請・登録する。

- ・新規登録料 15万円
- ・メール申請、許可まで3週間程度

4. 記念日登録後の広報及び関連イベントの実施（案）

- ・登録されたら大日本蚕糸会からプレスリリースを行う。
- ・「蚕糸の日」に、大日本蚕糸会の蚕糸功労者表彰受賞者の講演会を開催。
- ・「蚕糸の日」を含む1か月間を「蚕糸月間」とし、関連イベントを募集し大日本蚕糸会HPで公表。

5. 「蚕糸の日」の選定（案）

候補日	理由	事務局意見
3月 4日	「サンシ」の語呂合わせ	2024年3月4日に若手養蚕農家が中心となって、「蚕糸の日決起大会」と題した関係者の集いを開催している。「サンシ」の語呂合わせはわかりやすいが、蚕糸業の近代日本の発展への貢献や歴史・文化的な重要性は伝わらない。
3月14日	宮中御養蚕が始まった日（旧暦）	皇后陛下（照憲皇太后）が宮中御養蚕を開始した明治4年の第1回の掃立日（旧暦）。この御養蚕には新1万円札の肖像に採用された澁澤榮一氏（昭和2年恩賜賞受賞）が貢献しているという話題性もある。 語呂合わせ的には「サン・と・シ」（「十四」の「十」を「と（お）」と読む。）あるいは「サン・プラス・シ」（「十」を「プラス」と読む。）ということも可能。 単純な語呂合わせではないため、その意味を説明することによって、蚕糸業の近代日本の発展への貢献や歴史・文化的な重要性を訴えるきっかけとすることができる。
8月 3日	「ヨーサン」の語呂合わせ	一般の人から見ると、「ヨーサン」という語呂合わせの言葉と「蚕糸の日」の関係を連想しにくい。
10月4日	世界遺産富岡製糸場の創業日	世界遺産富岡製糸場と関連した日であり、近代日本の発展に貢献した養蚕業への理解を深めるという観点から意義がある。一方、群馬県富岡市という地域色が強く、全国的に蚕糸業への理解を広めていく日という点ではマイナス面がある。